

教育基礎論	1年・後期	2単位	講師 堤 ひろゆき
科目カテゴリー	教職科目	科目ナンバリング	36211252

1. 授業のねらい・概要

われわれは教育を通じて大人になり、教育という関係性のなかで日々他者とかかわっている。誰もが日常にかかわり経験的に知っているこうした広い意味での「教育」を、批判的に捉え直す試みが教育「学」だとするならば、教育学を学ぶことにはわれわれ自身のアイデンティティを問い直す作業が必然的に含まれると言える。この授業では、われわれが素朴に抱く子ども観や学校観の歴史的・思想的起源を探ることによって、自らの暗黙的な教育観を反省的に対象化・言語化することを目指す。

2. 学修の到達目標

他の諸学問とは異なる教育的な思考様式の基礎を身につけ、教育という視座から様々な事象を眺めることの重要性の理解をテーマとし、下記の目標を掲げる。

1. 教育の原理に関する基礎概念や理論を理解する。
2. 教育思想の変遷や学校教育の歴史について理解する。
3. 現代の教育問題について、理論や歴史をふまえた考察を行うことができる。

3. 授業の進め方

レジュメおよび資料を配布し、基本的には講義形式で進めていく。また具体的な教育実践を扱った映像資料なども適宜織り交ぜていく。

4. 授業計画（講義）

1. 講義の概要	9. 教育思想史を学ぶ③：ヘルバルトとデューイ
2. 「教育」の条件①：ヘレン・ケラーの事例から	10. 日本の教育の歴史①：近代教育制度の始まりから大正新教育運動
3. 「教育」の条件②：野生児の事例から	11. 日本の教育の歴史②：大正から戦後の教育への連続と断絶
4. 教育における「発達」という視点	12. 近代教育批判①：近代的主体の形成と学校教育
5. 子ども観の思想史①：子ども観の社会史	13. 近代教育批判②：教育空間の可視化と学校教育
6. 子ども観の思想史②：現代の子ども観	14. 新しい教育を考えるために①：学校接続と生成としての教育
7. 教育思想史を学ぶ①：ロックの積極教育とルソーの消極教育	15. 新しい教育を考えるために②：媒介者としての教師
8. 教育思想史を学ぶ②：消極教育の受容と展開	

5. 成績評価の方法・基準

受講態度・講義中の小レポートなどによる平常点（30%）、期末課題（70%）の成績を総合的に加味して評価する。

6. テキスト・参考文献

テキスト：自作の資料を配付する。

参考文献：木村元ほか（2009）『教育学をつかむ』有斐閣

7. 準備学習に必要な時間、又はそれに準じる程度の具体的な学習内容

配布資料および参考文献の読解に30分程度、論述課題にむけての準備に1時間程度、あわせて1時間30分以上。

8. 受講上の留意事項

明確な目的意識をもち、教職に就くことを強く希望する学生の受講を望む。

9. 課題に対するフィードバックの方法

課題提出前に解答のポイントを説明する。課題後には講評を公開する。

10. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

養護教諭第一種免許状取得のための必修科目である。

11. 実務経験のある教員等による授業科目

該当しない。